

徳川みらい学会第3回講演会

「おせんげんさんと私」

エッセイスト(元NHKアナウンサー) 山川静夫氏



徳川みらい学会第3回講演会を9月15日(金)、しずぎんホール「ユーフオニア」で開催。静岡市出身のエッセイストで元NHKアナウンサーの山川静夫氏が講演しました。講演要旨は次の通り。
(文責・企画広報室)

父が命がけて守った浅間神社

静岡浅間神社の廿日会祭は、なかなか盛り上がりません。せんげんさんについて、もっと知ってほしいというのが私の願いです。

私が生まれたところは梅屋町の津島神社です。父は浅間神社に通っていました。浅間神社には、大國主命を祀る神部神社と、木之花咲耶姫命を祀る浅間神社があります。山頂の麓山神社には、そのお父さんの大山祇命を祀っています。4月3日に百段の階段を昇ってお父さんに会いに行くのが昇祭。一晩泊って4日に降りてくるのが降祭。

そこで、静岡から全国に行ったお嫁

さんが故郷に戻ってくる日をつくったかどうか。

大歳御祖神社は安倍の市の守護神を祀っていますが、昭和20年6月19日の空襲で拝殿が焼けてしまいました。その時に、私の父と神主が猛火の中に飛び込んで、随臣を救い出したのです。

浅間神社の隣にある東雲神社の狛犬は、昭和15年の大火と昭和20年の空襲を生き残ったもので、父が津島神社から移しました。

私は84歳。いろいろなピンチがありました。それが、それを乗り越えることができたのは、せんげんさんのおかげだと大事にしています。

父が遺した「静夫育児日記」

私の父が昭和55年に亡くなり、遺品を整理していると「静夫育児日記」という手帖が出てきて、びっくりしました。昭和7年6月21日から「月経なく妊娠の感あり」と書き始めています。

「昭和8年2月27日。朝より40分位間を置いて腹痛し。午後より20分位かかり、5時頃10分位。夕食のため浅間神社から帰宅せし折には5分位となり、鈴木産婆に自転車に依頼に行く。自動車に産婆宅に迎えにや

り、梅屋町へ帰宅。よね(静夫の母)陣痛甚だし。6時半、産婆着。午後6時58分に元気な産声とともに男子誕生。早速神々にお礼を申す。体重960匁。身長1尺五寸」。

「9月10日。元気大変良し。大根漬の汁を喜んで吸う。葉を喜んで飲む。近頃、夜半に一人起きて遊ぶ」。

「9月17日。静夫、カレー粉を食う。喉につかえて非常に苦しむ」。

「昭和9年10月8日。言葉わりあいはつきりとす」。

「10月13日。静夫、若竹座へ天勝(手品師)を見に行く」。

「10月31日。静夫、字を書くこと、本を読むことを大変好む」。

「11月6日。宝台院にサーカスを見に行く。大変喜ぶ。特に象を喜ぶ」。

これが私の原点です。私は、父の手帖を宝物のように持っています。

なんでもいいから目標をもつ

父は学校を出ていないので、昭和4年から静岡浅間神社一筋に昭和55年までつとめあげて、亡くなる少し前に宮司になりました。

子どもには苦労させたくないというところで、私は國學院大学に入りましたが、歌舞伎が好きになってしまいました。野球が好きで、草野球でアナウンサーの実況の真似をしていたら、それが評価されました。だから、何がプラスになるか分からない。どんな失敗でも役に立たないことはない。活路を見出した時に「これだ」と分かるのです。なんでもいいから目標をもつことが大事です。

丈夫で長生きするには気(気合)を付けることです。私は、脳梗塞、心不全、腸閉塞、膀胱癌をやりました。だんだん気を付けるようになりません。病気は弱者を穴の中に引きずりこもうとしますが、病気との綱引きに負けないことです。

若者のエネルギーと、年寄の知恵と、求める目標が合体した時に、せんげんさんの廿日会祭は良いものになると思います。なんとかそれを実現してほしいです。

個人・法人会員を随時募集しています。皆さまのご入会をお待ちしております。

〈お問い合わせ〉徳川みらい学会事務局 〈TEL〉284-9660 〈HP〉[徳川みらい学会](#) [検索](#)